

(別紙5)

整理番号 2017P-009
補助事業名 平成29年度 自転車競技の普及促進及び競技力の向上に資する事業 補助事業
補助事業者名 一般財団法人 日本サイクルスポーツセンター

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

アジアサイクリングセンターの運営

①国内トレーニングキャンプ (<http://www.csc.or.jp/ccc/index.html>)

アジア地区の将来有望な自転車競技選手及びその指導者をCCC修善寺に招致し、自転車のセッティング・ペダリング等の基本指導から、スポーツ医科学のエビデンスに基づいたトレーニング方法に至るまで、長年にわたって蓄積したノウハウを理論的に解説し指導を行うとともに、最高のトレーニング環境のもとで、それらを実践・体感させる。また、同じ目的を持った様々な国籍の参加者がトレーニングや生活を共にすることで、良好な国際交流を図り、世界を舞台に活躍できる素養を身に着ける。

②CSCトラック競技大会(夏・秋2大会)

2020年東京オリンピックの自転車競技でも使用される「伊豆ベロドローム」を会場にして、1000分の1秒まで計測可能な電気計時装置を使用し、日本自転車競技連盟の競技規則に則った競技運営を行うなど、通常では体験できない本格的な自転車競技大会を企画・体験させることにより、競技者のモチベーションの高揚を図る。併せて様々な年代・技量の自転車競技愛好者が一堂に会し、日頃の練習の成果を発揮できる機会を提供することにより、生涯スポーツとしての自転車利用の促進並びに自転車競技者の底辺拡大に努める

③2020年東京オリンピック・パラリンピック機運醸成

年間20万人近くの自転車愛好者の入場が見込める本センターの特性を活かし、実際に会場の一つとなる伊豆ベロドロームにおいては、映像により世界基準の室内型板張り250mトラック並びにオリンピック自転車競技種目の紹介・解説を行う。

一方、来場者の憩いの場でMTBコースも一望できる管理棟3階の展示ロビーにおいては、種目別に競技用自転車の実物を展示するなどして、2020年東京オリンピック・パラリンピックの機運醸成を図る。

(2) 実施内容

年間2回のトレーニングキャンプ(14日間/回)のトレーニングキャンプを計画し、アジアの41のNF(National Federation)へ参加を呼び掛けたところ、以下の通り参加があり、当該キャンプを実施した。

(別紙5)

【実施期間】

- ①第1回 平成29年6月18日～7月1日(2週間)
- ②第2回 平成29年11月4日～17日(2週間)

【参加国数及び人数】

- ①4か国から16名の選手
- ②5か国から19名の選手及び6名のコーチングスタッフ

【内容】

2週間のうち初めの1週間はハイボリュームなプログラムで基礎的な体力、技術を養い、後半の1週間で神経系の能力向上のためのトレーニング、そして最終セッションでは、電気計時システムを使用してタイムトライアルを実施、最短でも3か月ほどはかかる期分け(ピリオダイゼーション)を凝縮した形でのキャンプとして、その考え方の啓発を試みた。各トレーニングにおいては、心拍数や乗車フォームの連続写真等リアルなデータをフィードバックしながら、各参加コーチや選手たちにスポーツ医科学に基づく指導を実施した。





②CSCトラック競技大会（夏・秋2大会）

(http://www.csc.or.jp/event/track_kidsmasuter/index.html)

今年で13年目を迎え、競技会場も6年前より屋内板張り250m自転車競技場「伊豆ベロドローム」に移し、天候に左右されることなく毎年開催している。

【大会名】

- ①全国小学生室内板張りトラック競技大会／CSCトラック自転車競技大会2017夏（Kid's～マスターズ）
- ②CSCトラック自転車競技大会 2017秋

【実施期間】

- ①平成29年7月22日（土）～23日（日）（2日間）
- ②平成29年10月22日（日）（1日間）

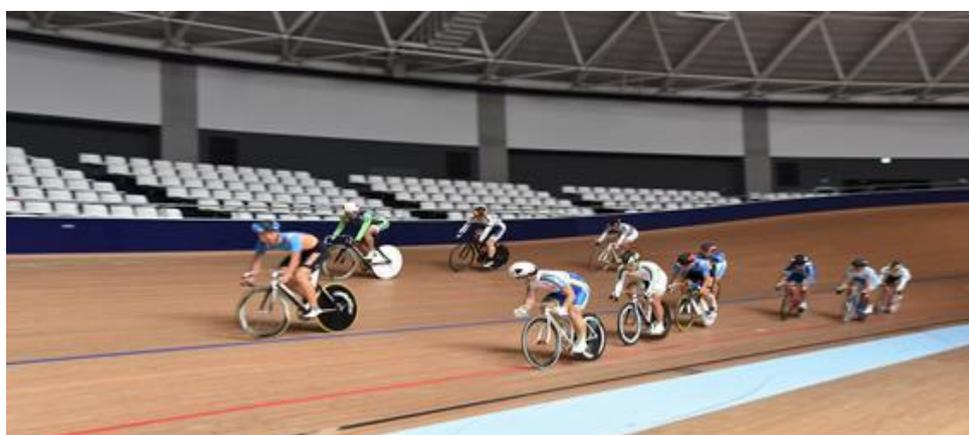
【参加者】

- ①153名
- ②99名

【内容】

両大会ともタイムトライアル競技を始め夏大会にはケイリン・ポイントレース・スクラッチレース・エリミネーションレース、秋大会はケイリン・テンポレース・エリミネーションレースの競争競技を行うとともに、本大会オリジナル種目の親子チームスプリントも実施した。

(別紙5)



③ 2020年東京オリンピック・パラリンピック機運醸成

本センターの定款に規定する目的事業「サイクルスポーツを中心とする総合的な施設の建設及び運営」の一環として、2020年東京オリンピック・パラリンピックの機運醸成の一助となるようオリンピック種目の競技用自転車展示コーナー、競技種目及び競技用施設紹介コーナーを本施設内に設置を行った。

(別紙5)



2 予想される事業実施効果

アジアサイクリングセンターの運営

①国内トレーニングキャンプ

国内トレーニングキャンプの参加者は、今回においても年々増加傾向にあるジュニア・ユース世代の若い参加者であることから、基礎的なトレーニングに主眼を置き、将来性を考慮した長期的な育成ビジョンに基づくトレーニングを行うことにより、アジア地域における選手の競技力の向上並びにトラック競技の普及が図られ、世界レベルで活躍できる選手の輩出が期待できる。

②CSCトラック競技大会（夏・秋2大会）

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の自転車トラック競技会場である「伊豆ベロドローム」を会場に自転車競技大会を開催することは、自転車競技に対する関心を高揚し、愛好者の競技力向上を図る絶好の機会となることから、今後も継続して大会を開催することで、自転車競技者の底辺拡大が図れるものと思料する。

③2020年東京オリンピック・パラリンピック機運醸成

日本でのオリンピック開催は2020年の東京大会で2回目となるが、前回

(別紙5)

の開催は1964年で、既に50年以上が経過しており、大会の規模も大きく様変わりしている。この半世紀に一度あるかないかの世紀の祭典は、国内で自転車競技をメジャーにする絶好の機会であるため、この機を捉え、入念な準備と機運醸成に取り組むこととし、まずは本センターから様々な関連情報の発信を行い、静岡県及び伊豆市が実施する広報活動やカウントダウンイベントと併せ、静岡県民のみならず全国規模で自転車競技熱とオリンピック熱が高揚できると思料する。

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

該当なし

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

1・国内トレーニングキャンプ

トレーニングマニュアル 60冊

2・トラック競技大会(夏・秋2大会)

大会募集チラシ 夏 1,000枚

大会募集チラシ 秋 1,000枚

大会プログラム 夏 200部

大会プログラム 秋 150部

3・2020年オリンピック・パラリンピック機運醸成事業

該当なし

4 事業内容についての問い合わせ先

団体名: 一般財団法人 日本サイクルスポーツセンター

(イッパングァンホクジン ニッポン サイクル スポーツ センター)

住所: 〒141-0021

東京都品川区上大崎3丁目3番1号

代表者: 会長 平 柳 豊 (カイヨウ ヒラヤギ ユキ)

担当部署: 総務部総務課 (ソムブ ソムカ)

担当者名: 総務課長 土屋博良 (ソムカチヨウ ツチヤヒロシ)

電話番号: 0558-79-0006

F A X: 0558-79-0908

E-mail: csczaimu@csc.or.jp

U R L: <http://www.csc.or.jp>